



Tokyo, JAPAN

# オレゴン留学日記 (5)

早稲田大学教育学部 3年・オレゴン大学へ留学中

清沢 健二



Oregon, U.S.A.

どうもこんにちは。今回の留学記は、締め切りギリギリに提出させていただくことになりました。というのも、私の通うオレゴン大学では3月の中旬にはファイナル・ウィークとなり、テストやペーパーなどの課題が多く課されているからです。

私はこの冬のタームでは、すべて自分の専攻であるLinguistics(言語学)の授業を取っています。私のクラスは大学3年生から大学院生向けのものなので、課題の量が多くレベルも高く、すべてこなしていくのに苦心しています。300番台でのクラスのGTF(教授を補佐する大学院生)が、400番台のクラスでクラスメートとして一緒に勉強をされていて、なんだか不思議な気持ちです。今回の留学記は、私がクラスで行ってきたこと、そして春ターム、留学後について考えていることをお話をさせていただきます。

## 「ことば」のおもしろさ

私が言語に興味を持ち始めたのは、高校2年生のときあたりだったと思います。英語の授業に全然ついていけなくなっていた私が一気奮発し、必死に英語を勉強しました。外国のことばを学ぶのっておもしろいなあ、と思いました。それから数年経ち、いろいろな国を旅行して、その度にいろいろなことばを学んで、現地の人々とコミュニケーションを取ってきました。世界中の人たちと会話をして、その人たちの心や思い、気持ちや考えを聞き、自分の考えをフィードバックしていくことに、大きな楽しみを覚えました。

私がいま第二言語習得とその教育方法を専攻しているのは、そういった経験をしてきたことが一因にあると思います。ことばは私たちのものの考え方に影響を与え、それを表現していき、アイデンティティーを築きあげます。そんなことばのダイナミックさにとりつかれて、ことばを研究していくこ

とに決めました。

冬のタームで取った2nd Language Teachingの授業では、実際の教育現場でことばをどのように教えていったらいいのかわ、実践的に学んできました。私が特に興味を持ち、ファイナルペーパーで取り扱った分野は、イマージョン教育と文化の関係についてです。言語教育を行っていく上で、その国や子どもたちの持つ文化は、切っても切り離せません。とりわけイマージョン教育に関しては、第二言語習得と共に対象の国の文化を学ぶことを大きな目標としています。しかし、二つの文化や言語を同時に学ぶことができるのか、どの程度の理解がつくのか、卒業後にどのような効果が出てくるかなど、イマージョン教育にはまだまだわからないことがたくさんあります。これらの問題は、これからの私の課題でもあります。

## 春タームと留学後

少しばかりの休みの期間をはさんで、4月から春タームがスタートします。これが私たち交換留学生にとって、最後のタームとなります。私はこの留学を少しでも意味あるものにしてしようと考え、通常の授業に加えて、インターンをすることに決しました。私がインターン先に選んだのは、友人学園という日本語イマージョン学校です。以前の留学記でもお伝えさせていただきましたが、私はオレゴン大学で留学を始める直前まで、この公立学校でインターンをしていました。今回は、春学期の授業の合間をぬって、日本語のクラスで先生の補助をしていく予定です。どの学年を教えるかなど詳しいことは決まっていますが、子どもたちがどのように第二言語を習得していくのかを見ていくととてもいいチャンスだと考えています。

私の留学プログラムは6月13日に終了します。早稲田大



寮の友人とシアトル・マリナーズ観戦



ルームメイトのJamesと